

地理的視点からみる 都市社会

杉浦 真一郎 教授

Prof. Sugiura Shinichiro

都市と社会

3 年前期 / 選択科目・専門部門 (経済・経営科目群)

地域ごとの環境の多様性を知る

— 「都市と社会」の講義では、どんなことが学べますか？

「都市と社会」の講義は、現代日本を取り巻く人口変動（少子高齢化・人口減少）や財政危機の下で、様々な公共サービスに量的質的な地域差がみられる現状を把握していくところから始まります。私は地理学が専門なので「**地理学の立場から都市や社会をみると、こんな見方がありますよ**」ということ、様々な事例を元に説明しています。地域差を自治体レベル、あるいはよりミクロなスケールで理解することで、その地域に立地する諸施設によって生じる外部性が、私たちの居住環境に大きな影響をもたらしていることに気づき、考える契機としてもらえたらと思っています。

「どこで暮らすか？」を考える種に

— 具体的な授業内容について教えてください。

講義では、様々な都市や地域における社会のありようを地域差や地域的な特徴といった地理的視点から理解することを目指し、いろいろなテーマから都市社会の実態を見ていきます。例

えば、医療・福祉の制度、乳幼児医療費助成、就学援助制度、学校区の特性と選択制、選挙区制度、軍事・公営競技・原子力施設、刑務所・少年鑑別所、更生保護施設等、各地域の医療・福祉・教育・司法・労働などの諸分野に関して、最新の制度や情勢を織り交ぜながら、現代の都市で起きている出来事や問題への関心を深めてもらっています。これらには、身近な話題からそうでないテーマまで含まれますが、新聞記事や統計データも授業で紹介し、学生にはその問題を「**自分ごと**」として捉えるように促しています。都市や地域の様々な特徴を理解しようとする姿勢を身につければ、将来、自分らしく暮らしやすい居住地を選ぶ上で役に立つのではないかと考えています。

— 都市情報学部で、学んでほしいことは？

4年間の学習全体を通して、数多くの必修科目を中心に、情報スキルをきちんと身に付けた上で、**都市や地域をみる目を持った人材**になってもらいたいと思っています。また、授業以外でも、日頃から新聞をパラパラとめくる習慣を持って、「社会で何が起きているのか？」「今、何が問題となっているのか？」など、基本的な情報をキャッチできるようにアンテナを張ってほしいですね。それだけで、日々の生活で聞こえてくる様々なニュースや情報が、さらに身近に感じられるようになると思います。

杉浦先生の必需品

must have!

調査後はすぐにメモをデジタル化

調査のための出張先には必ずノートPCを持参し、聞き取り後にメモの内容をすぐにデジタル化。「記憶力には限りがあるので、できる限りその日のうちに入力するようにしています」。



学生の声



市原 智也 さん (3年生)

杉浦先生は関連資料を用意してくださるので板書を書き写す必要がなく、講義をしっかり聞きながらメモできるので、理解度が増していると感じます。この講義では、地域ごとの社会的・経済的特徴やその特徴による地域差など、様々な視点から都市を見ることができ、とても興味深いです。